

通商産業政策史完成記念シンポジウム
「グローバル化と産業政策の転換」
パネルディスカッション資料

2013年1月29日（火）

大橋 弘

RIETIプログラムディレクター（兼）ファカルティフェロー
/東京大学大学院経済学研究科教授

通商産業政策史完成記念シンポジウム
「グローバル化と産業政策」
「産業政策」の変遷

2013年1月29日

大橋 弘

東京大学

「産業政策」の変遷(1)

経済学の視点

1940－1960年代： 貿易保護と重工業化の道

「市場の失敗」が経済発展の妨げ

欧米資本に対抗するための国内重化学工業の育成(規模の経済)と国内産業の再編・最適化(「過当競争」の防止)

1970－90年代： 外圧による産業構造転換

「政府の失敗」>「市場の失敗」

国外からの圧力のなかでの規制緩和・構造的な市場開放と内需拡大

2000年代以降：『失われた10年以降』の内発的な構造改革

「政府の失敗」も「市場の失敗」と同程度に深刻。

産業・企業再生への支援による「競争力」の回復

内外価格差是正等に向けての自由化と市場ルールの整備

イノベーション・技術革新がひとつの眼目に。

「産業政策」の変遷(2)

政策対象

分野横断的

例

競争政策

国土計画

雇用法制

金融融資

科学技術・イノベーション

ベンチャー・経済構造改革

製品市場

土地利用

雇用・人材教育

資本市場

技術

社会制度

分野特殊的

例

公的支援

都市再生

構造調整

事業・企業再生

グリーン・ライフ

クラスター

“Tyranny of Market”と人口減少

- 製品や技術に「多様性」があるときに、市場での選択は必ずしも最適にはならない。
 - （例） 市場規模と消費者の選択肢
 - （例） 技術選択と市場競争
- 市場規模の縮小は“Tyranny of Market”（市場の専制）を深刻化する可能性。
 - － 海外市場を取り込むことの重要性
 - － そのための国内市場の戦略的活用、及び経済構造改革の推進
- 評価検証に基づく政策の順位付けが一段と重要に

今後の「産業政策」

- Whyではなく、Howの問題。
 - － 対象に応じた手法
 - 産業のライフサイクルに適した対応。比較優位の観点からの検討。
 - － 国際的な視野を持つ(リーダー)人材の更なる育成と活用。長期的視点に立った戦略的ポジショニングと(国内)企業とのコミュニケーションの確立。
- 「産業政策」の評価・検証が重要に
 - － 個別政策に対する評価
 - 特区を活用した社会実験等への積極的取り組み
 - (経済史家による)過去の政策に対する評価検証
 - － 政策体系に対する経済史家による批判的検討
 - － こうした評価検討を政策へ迅速に反映する制度的枠組み